

文化協会 之正女

NO. 73

令和7(2025)年2月

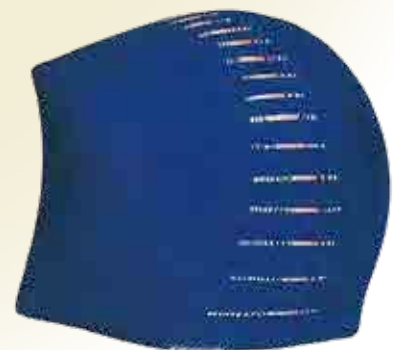
編集・発行

愛媛県文化協会

松山市一番町4丁目4-2

TEL 089-947-5480

題字／鴻池樂斎



継承と創造 文化がつなぐ時

令和6年度県民総合文化祭を振り返って

愛媛の秋を彩る文化の祭典として、県民の皆様にも広く親しまれてきた県民総合文化祭は、本年度で37回目を迎えました。今年の県民総合文化祭は、A1の進化など社会は急速な変化を続け、少子高齢化や物価高騰、不安定な国際情勢など、先行きの見えない不安が渦巻く今こそ、「人間らしさ」の象徴である文化が過去と未来をつなぐ架け橋になり、県民の心の支えになるようお願いを込め、「継承と創造 文化がつなぐ時」をテーマに10月～12月にかけて県内各地で文化の秋にふさわしい多彩なプログラムを実施し、約20万人の方々にご参加・ご視聴いただきました。各文化団体は、日頃の活動の成果を披露し、来場された方々を魅了しました。

運営に携わった文化団体の皆様のご尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、多くの方々のご理解・ご協力により、今年度も県民総合文化祭を開催できましたことを、改めて感謝申し上げます。

今後とも、県民総合文化祭の開催を通じて、文化芸術の力で愛媛県を盛り上げ、「愛媛あふれる愛媛県」づくりに貢献できるよう取り組んで参りますので、皆様方のお力添えをお願いいたします。

舞台芸術事業

演劇公演

〔愛媛演劇協会〕

- ◎ 令和6年11月10日(日)
- ◎ 内子町共生館 共生館ホール

令和6年度の演劇祭は昨年内子町の打診もあり、内子共生館ホールで行われました。

実は第一回目の演劇祭が内子座で開催され、3団体の演劇関係者が学校の体育館をお借りして、みんな雑魚寝して大いに演劇論を議論した縁のある場所です。前日リハーサル後は、突然の全暗転！町中が大停電するトラブルもありましたが、



令和6年度の演劇祭は昨年内子町の打診もあり、内子共生館ホールで行われました。



無事本番を迎えました。今年度は地元の内子子ども狂言くらぶと愛媛ミュージカルプロジェクトのミュージカルの上演でした。松山からの出演者や観客は、内子の歴史がわかる狂言をこども達が見事に演じるのを見て、本当に感動しました。地元内子を誇りに思っているのが、凄く伝わりました。また内子の皆さんは、松山からのミュージカルを珍しそうに、楽しそうに観劇されていました。

お互いに素晴らしい交流が出来たと会員一同嬉しく思います。

目次

令和6年度県民総合文化祭を振り返って……………2～6	ご報告：東温市民ミュージカル
令和6年度地域子ども文化体験教室……………7	「人と川と祈りと ～重信川伝説」……………12
第39回国民文化祭「清流の国ぎふ」文化祭2024……………8・9	学芸員から見た愛媛の文化：
令和6年度伝統文化未来づくり事業……………10	近代日本画にみる俳文学との関わり……………13
吟行ナビえひめ……………10	文化イベント情報……………14・15
活動紹介：松山市文化協会……………11	筆のままに・受賞のご紹介・賛助会員の募集・編集後記…16

【表紙紹介】表紙の作品は、第73回秋季県展出品作品です。

左上から順に、水の惑星(越智幸男:会員優賞/写真)、人とAI(三好真奈花:愛媛県美術会大賞/デザイン)、祈り(大西實:準会員賞/版画)、華やぐ(泉京子:会員優賞/日本画)、生命惹く(小田久義:愛媛県知事奨励賞/彫刻)、白居易詩(大原玉連:会員優賞/書道)、初めての尾道(兵頭宏:会員優賞/洋画)、紺碧に陽光と煌き(野村拓功:準会員賞/工芸) 以上8名の愛媛県美術会会員の皆様の作品です。(敬称略)

文芸分野事業

川柳大会

〔愛媛県川柳文化連盟〕

◎令和6年10月27日(日)
◎愛媛県民文化会館 真珠の間

コロナ禍も終息し、昨年度に続き今年度も対面での大会を開催することが出来ました。北は青森から南は宮崎までの全国各地からの投句者180名の内、当日参加者は100名余りでしたが、コロナ禍以前の大会からは大きく減少してしまっただけの残念です。そんな中でも大阪、兵庫、岡山などから大勢の方が駆けつけて下さったのは大きな喜びでした。午前中には初心者向けの作句入門講座が行われ、午後からは8名の選者による入選句の披講が行われました。入選句は各題ごとに50句でその中で3句が秀句として選ばれ、その選ばれた秀句24句の中から二次選によって県知事賞、県教育長賞、松山市市長賞、松山市教育長賞、県文化協会長賞の5賞が決定されました。その県知事賞には「手放すと大きな傘になりました」の句で、岡山県の牧野ねえねさんが受賞されました。



企画公募事業

愛媛トランペット・カーニバル

◎令和6年11月30日(土)
◎愛媛県生涯学習センター
(県民小劇場)

今回が初開催となった愛媛トランペットカーニバルでは、県内各地より小学生から大人まで、総勢56名のトランペット愛好家が集まり、日頃の練習の成果を披露しました。東予・中予・南予の各地で合同練習を重ね、本番を迎えることができました。

全員によるファンファーレに始まり、ピアノ伴奏によるトランペット独奏、アンサンブル、そして全員での大合奏まで、トランペットの多彩な魅力を堪能する一日となりました。

映画音楽やクラシック、ポップスなど、特別にアレンジされた作品や愛媛県初演の作品も披露され、聴きどころ満載のプログラムとなり、観客と参加者が一体となって楽しむことができました。

また、今回の演奏会を契機に愛媛トランペット協会が設立さ



れ、参加者同士の交流が深まりました。最後に、企画公募事業に採択していただいたことを感謝するとともに、会場まで足を運んでいただいた皆さま、運営スタッフとして演奏会を支えていただいた方々に、心よりお礼申し上げます。皆さまの支援があつてこそこの成功でした。ありがとうございます。

今回の選者には兵庫の矢沢和女様や高知の小笠原望様など、ご遠路をお越しいただき、会を盛り上げていただいたことを感謝します。

なお、ジュニアの部においては、県内小学校の28校から1585名の応募があり、その中から4人の1年生を含む9名が入賞し表彰されたことを報告します。

企画公募事業

まさき作兵衛

フェスティバル2024

◎令和6年12月1日(日)
◎松前町北公民館

令和6年12月1日(日)、12月とは思えない陽気に恵まれた快晴の一日。「まさき作兵衛フェスティバル2024」が開催された松前町北公民館は溢れんばかりの人で賑わいました。

以前、松前町の方と話す機会があり、その中で印象に残った話がありました。「郷土の偉人、義農作兵衛さんの偉業が風化し始めている」

300年以上前の「享保の大飢饉」のことを自分事として考えるのは難しい。まして「命を懸けて種麦を残した」と言っても、今の豊富な食材を考えれば「昔のこと」に。

大切なことは「命の尊さ」。作兵衛さんはそれを人生かけて示してくれたんだと。



会場には個性あふれる出演者が集いました。ダウン症の方々が結成されたダンスチームJOYPOPさん、伝統を守り続ける大間ありあけ会さんによる「伊予万歳」、そして、作兵衛さんの人生を描いた朗読ミュージカル「作兵衛ドリーマー」。

ラストは会場全体で「花は咲く」を大合唱。かけがえない命が集い、会場が一つになりました。

このイベントを通じて、作兵衛さんへの畏敬の念はもちろん、故郷への愛が深まると嬉しいです。

松前町に訪れた際は、ちよつと足を伸ばして、雄大な麦畑を眺め、作兵衛さんの息吹を感じてくださると嬉しいです。

(義農作兵衛物語実行委員会)

代表 近藤誠二

企画公募事業

うわじま芸術文化の祭典!

牛鬼大作戦!!

◎令和6年10月20日(日)
◎宇和島きさいやロード商店街

宇和島から練習やイベントに松山まで通っているみんなだーいすきメンバーの「宇和島でも何かあれば」という想いと、宇和島市学習交流センターである文化施設のパフィオうわじまの方と話し合っていく中で「文化施設と商店街を結びイベントができたら」という想いを聞いて、今回の「うわじま芸術文化の祭典! 牛鬼大作戦!!」を企画、実現させていたできました。

宇和島市を盛り上げたいという想いを持った人たちに次から次へと繋いでいただき、みんなだーいすきメンバーも宇和島に通ってオリジナル牛鬼ダンスを練習したり、当日は商店街のみなさんのご協力のもと、衣装作りワークショップから牛鬼ダンスの練り歩き、パフィオうわじまや畑枝川親水ポケットパークでは、アートと茶道の融合、アートと音楽の融合が見られる展示、ワークショップや音楽ライブ、そして商店街から練り歩いてきた牛鬼ダンスの披露が行われ、多くの宇和島市民のみなさんと一緒にイベントを作り上げることができました。



今回、愛媛県民総合文化祭の企画公募事業としてイベントを実施させていただきました。イベントを単発で終わらせることなく、日頃から宇和島市のみなさんや商店街のみなさん、パフィオうわじまのみなさんとの繋がりを持ち続けて、もっともっと商店街も文化施設もともに盛り上がる形を模索していきたいと思えます。

令和6年度県民総合文化祭

総合フェスティバル

● 期日：令和6年10月26日(土) ● 場所：愛媛県県民文化会館 メインホール

県民総合文化祭のメインイベントである総合フェスティバルを、高等学校総合文化祭と合同で10月26日(土)に開催しました。約1900人の方にご来場いただきとともに、実施したオンライン配信では約4600回のご視聴をいただきました。

今年度の県民総合文化祭のテーマ「継承と創造文化がつなぐ時」のもと、文化の「創造」と「継承」の二部構成により、世代やジャンル、プロアマチュアの枠を超えた貴重なコラボレーションが実現し、県文化協会の会員団体も2団体出演しました。

オープニングでは、実行委員会名誉会長である中村時広愛媛県知事の主催者挨拶の後、土居英雄実行委員会会長と松山南高等学校2年の清水彩葉さんが合同開幕宣言を行いました。

● 第1幕 「創造」

第1幕は、総合フェスティバルならではのコラボレーションにより、文化の「創造」が実現しました。トップを飾った演目は、バレエ・津軽三味線・チェロのコラボ。国内外で活躍するバレエダンサー・針山愛美さんが登場し、片山慈さんによる三味線の演奏、上月典子さんによるチェロの演奏と見事に融合した斬新なパフォーマンスで、観客を魅了しました。続いて、松山市立西中学校合唱部、済美高等学校合唱部、愛媛県合唱連盟の構成団



針山愛美&片山慈&上月典子
(バレエ・津軽三味線・チェロ)



「春」を歌おう合唱団



えひめジャズネットワーク&
松山南高等学校吹奏楽部(ジャズ)

体(C:Choir)で結成された「春」を歌おう合唱団による合同合唱で、重厚なハーモニーを会場で響かせた後は、八幡浜高等学校ダンス・バトン部とOJT親子でやてや連が、和と洋が融合したエネルギー

シユな踊り「やてや」を披露しました。第1幕のラストは、えひめジャズネットワークと松山南高等学校吹奏楽部によるジャズ演奏。観客が手拍子を行う場面もあり、軽快なジャズのリズムで会場が一体となって盛り上がりました。

幕間には、新居浜西高等学校放送部が、地元新居浜市の菓子店「別子飴本舗」取材し制作した映像作品「かんからから」が上映されました。

● 第2幕 「継承」

第2幕のテーマは「継承」。太鼓芸能集団「鼓童」の元メンバー・松浦充長さんと、その技術を継承した未来高等学校和太鼓部との共演により、リズムカルな和太鼓の音色を響かせた後は、昨年度の総合フェス

ティバルに出演いただいた弦楽奏者・三上徹さんから事前に演奏指導を受けた、松山南高等学校弦楽部による弦楽演奏の



カメハ(パーカッション)



グランドフィナーレ

● グランドフィナーレ
秋川雅史さんと第1幕で登場した「春」を歌おう合唱団との合同合唱で「千の風になつて」を再び披露。他の出演者もステージに上がって、ステージ・観客が一体となって「さみ、総合フェスティバルを壮大に締めくくりました。」

● スペシャルゲストライブ

西条市出身のテノール歌手である秋川雅史さんをスペシャルゲストにお迎えし、代表曲「千の風になつて」のほか、「天城越え」などの日本の歌が披露され、圧巻の歌唱力と軽妙なトークで観客を魅了しました。



スペシャルゲストライブ

令和6年度県民総合文化祭

子ども伝統文化フェスタ

● 期日：令和6年12月1日(日) ● 場所：愛媛県県民文化会館(サブホール・県民プラザ)

県民総合文化祭のフェスティバル事業である「子ども伝統文化フェスタ」を12月1日(日)に県民文化会館において開催しました。昨年度を超える25団体に参加いただいたほか、「えひめ生涯学習夢まつり」との同時開催となり、例年以上の賑わいがみられました。

①開会式

愛媛県教育委員会 高岡哲也教育長による挨拶の後、長年にわたり子どもたちへの伝統文化の継承活動に尽力された6名の指導者に知事感謝状を贈呈しました。その後、今年度より作成したオープニングムービーの上映により開幕しました。

【受賞者】

岡田 文字(茶道裏千家淡交会伊予支部)

伊賀上利子(大間ありあけ会)

長岡 陽子(伝統文化いけばな子ども三間教室)

喜安 卓子(つくしいけばな子ども教室)

池谷三和子(川柳まつやま吟社)

大成 亮(高部獅子舞保存会)

②成果発表

サブホールにおいて、箏曲や吟詠、能楽、日本舞踊のほか、虎舞、太鼓、五ツ鹿踊り、雨乞い踊りや継ぎ獅子といった愛媛の伝統芸能などを学ぶ子どもたちが、日頃の練習の成果を発表しました。

③体験・実演・展示コーナー

県民プラザにおいて、川柳、俳諧やいけばな、茶道、箏、着付けの体験や実演、作品展示が行われ、子どもたちは楽しみながら様々な芸術・文化に触れ、理解を深めました。同時開催された夢まつりのブースに団体紹介カードを設置させていただくなど、両イベントを周遊いただけるよう工夫しました。



いけばな展示



松柏会子どもマナー教室



水引ミニリース作り



藤間流ひな弥会



箏・絹の会「西子箏曲子ども教室」



浮穴子ども日舞教室

今治ライトハイク協会



④スペシャルステージ

津軽三味線奏者の片山慈さんと、主宰する「絢の会」の皆様をゲストに迎え、迫力ある演奏を披露していただきました。また、「コラボ企画」として、出演団体から有志6名が集まり、片山さんの演奏に合わせて日本舞踊を披露しました。子どもたちは団体の垣根を超えて交流を深めることができ、三味線の力強い音色に合わせて踊った経験から、より一層伝統文化に親しむをもってくれた様子でした。



スペシャルステージ

⑤閉会式

時間いっぱいまでサブホールの舞台発表、県民プラザの展示や体験が続き、温かい拍手の中、幕を閉じました。これからも、子ども伝統文化フェスタを通じて、愛媛の文化を受け継ぐ子どもたちの発表、作品展示の場や交流の機会、気軽に伝統文化に触れられる環境を提供することで、愛媛の伝統文化を次世代に繋げていきたいと思っております。

参加した子どもたちの声

- どの発表もいんしょうがあるけど、はくりよくがあつてよかったです。来年もでたいなと思いました。
- おはなをみんなにみてもらえてよかったです。
- 練習したことがしっかりできてよかったです。しつぱいしてしまつたけど楽しかったです。
- あまごいをする前は、ちよつときんちようしていたけど、おどつたら、きんちようしなくなつたから、いっしょうげんめいおどれた。

参加者からは「日常生活でも子どもたちが丁寧な態度を見せるようになった」と好評をいただき、貴重な成長の機会となりました。また、過去に参加した大学生から「当時学んだ礼儀や所作が今も役立ち、お点前を楽しめるようになった」との声も寄せられ、文化の継承が感じられる場となりました。



3. 今後の展望
この茶会を通じて、次世代へと伝統文化を伝えていく重要性が再認識されました。次年度は、市広報なども活用し、例年以上に幅広い年齢層を対象に、事前学習やワークシヨップを導入することで、多様な世代が参加しやすい環境を整え、より深い文化理解の促進を目指してまいります。

今治市文化協会

1. 事業概要と成果

令和6年8月25日、今治市河野美術館にて「元輝流光雲会チャリティー茶会」親子煎茶教室「成果披露」を開催しました。親子50名とスタッフ10名が参加し、子どもたちは浴衣を着て和装の所作や礼儀作法、おもてなしを学びました。

2. 実施内容

- ① 和装体験…浴衣を着用し、美しい姿勢や歩き方を学びました。
- ② 礼儀作法…深いお辞儀や丁寧な言葉遣いを実践しました。
- ③ 菓子の運び方…和菓子を運ぶ所作を体験しました。
- ④ 茶文化体験…煎茶と和菓子を味わい、日本の茶文化を学びました。

3. 今後の展望

この茶会を通じて、次世代へと伝統文化を伝えていく重要性が再認識されました。次年度は、市広報なども活用し、例年以上に幅広い年齢層を対象に、事前学習やワークシヨップを導入することで、多様な世代が参加しやすい環境を整え、より深い文化理解の促進を目指してまいります。

宇和島市文化協会

宇和島市文化協会では、今年度は2団体の竹の団体が地域こども文化体験教室の採用を受けました。三間地区の「箏曲さくら会」と宇和島地区「琴好会玉木社中」が事業を実施しております。今回は、「琴好会玉木社中」の事業についてご報告いたします。

琴好会玉木社中では、5月12日(日)と11月10日(日)に宇和島市の道の駅「きさいや広場」にて体験教室を実施しました。5月12日(日)では琴好会の演奏会にあわせて、また、11月10日(日)には宇和島市民文化祭に参加して開催した「箏と十七絃による秋のしらべ」にて、体験教室を実施しました。どちらの体験教室でも、まず「モ演奏」を行い、普段あまり目にしない「箏」に興味を持ってもらい、そのあと実際に楽器に触れてどういう仕組みで音がでるのか体験し、楽器のサイズ感、糸の数、太さを知ってもらいました。体験したお子さんたちは、「さくらさくら」や「となり」のトトロ」など知っているメロディーを自分で弾けることに驚いたり、指で弾いたり、軽く押したりすることで色々と音が変わることを楽しむことができたと思います。

宇和島市民文化祭で実施した体験教室では、宇和島南中等教育学校邦楽部の生徒も指導に加わったことで、体験するお子さんたちには親しみやすさが増し、また教える生徒たちにも良い刺激となったのではないのでしょうか。この体験教室の様子は地元ケーブルテレビでも放送され、その場で参加できなかった方にもこのような機会があることを知っていただけたと思います。

来年度以降も、お子さんたちに様々な文化体験をしてもらえるような事業を計画し、子どもたちが将来「やってみたい」と思っきっかけ作りができたらいと思います。



令和6年度 地域こども 文化体験教室

県文化協会では平成25年度より、地域における文化団体および文化活動の活性化を促進するとともに、文化の担い手の育成および次世代への文化の継承に努め、地域および本県文化の振興を図ることを目的に、地域別会員団体が企画する文化体験教室に要する経費の一部を助成する「地域こども文化体験教室事業」を実施しています。今年度は、4市町の文化協会より申請をいただきました。今回は、その中から今治市文化協会及び宇和島市文化協会の活動についてご報告いたします。

なお、当事業は来年度においても実施する予定ですので、各会員団体の皆様方の御理解・御協力をお願いいたします。

【令和6年度採択】

西条市文化協会
今治市文化協会
内子町文化協会
宇和島市文化協会



実施要領

※年度により助成条件や助成金額などが変更になる場合があります。

募集する企画の内容及び条件等

- ・地域別会員団体の構成団体など地域の文化団体が実施する文化体験教室であること。
- ・参加対象について、子どもに限らず、親子とすることも差し支えないこと。
- ・参加料を徴収する場合は、子どもたちが参加しやすい金額とすること。
- ・複数分野の文化を体験できる企画が望ましいこと。
- ・当該年度に実施する文化体験教室であること。

選考方法

- ・申請のあった企画の中から、予算の範囲内で選考する。
- ・選考は別に設置する選考委員会が行う。

助成金額等

- ・企画の実施に要する経費のうち、地域別会員団体の自己負担の範囲内で助成する。
- ・助成金の額は1団体15万円以内とし、地域別会員団体に対して助成する。
- ・助成金の額は、選考委員会が決定する。

第39回国民文化祭 「清流の国ぎふ」文化祭2024

「第39回国民文化祭」「第24回全国障害者芸術・文化祭」は、統一名称『清流の国ぎふ』文化祭2024」として、岐阜県にて開催されました。「ともに・つなぐ・みらいへ」清流文化の創造を大会テーマに掲げ、令和6年10月14日(月・祝)～11月24日(日)にかけて、様々な催しが行われました。

愛媛県からは、小倉百人一首競技かるた全国大会に「愛媛かるた会」が、全日本健康マージャン交流会に「愛媛麻雀段位審査会」が、連句の祭典に「愛媛県連句連盟」が、出場し、日頃の練習の成果を存分に発揮されました。中でも連句の祭典では、「県知事賞」ほか1賞を受賞されるなど華々しい活躍をされております。

国民文化祭は、全国の文化団体が一堂に会し、活動の発表や他県団体との交流を深めるとともに、地域の特色を生かしたイベントを開催する国内最大規模の「文化の祭典」です。

令和7年度は、「ながさきピース文化祭2025」として9月14日(日)から11月30日(日)の間、長崎県にて開催される予定です。「文化をみんなに」をテーマに各種催しを実施される予定ですので、各分野別・地域別団体にお送りしている各種案内や国民文化祭のHPをご確認いただき、ぜひ参加をご検討ください。



ながさきピース文化祭の公式HPはこちら

愛媛県連句連盟 連句の祭典

- 令和6年10月26日(土)・27日(日)
- じゅうろくプラザ(岐阜市橋本町)

今年の国民文化祭・連句大会は、岐阜で行われた。標高329㍎の金華山山頂の岐阜城には信長の愛した品々が展示され、蛇行する雄大な長良川が一望できる。長良川沿いに鶴飼船乗場、ミュージアムもあり、鶴を見ることもできた。水量が多く、洪水を防ぐための陸間があちこちに設けられているのも、珍しい。愛媛からの参加者は4名。表彰式・講話の後、全国から集まった120名の連衆が、24座に分かれて連句を巻くのが醍醐味である。また、観光も楽しみである。長崎にバトンタッチされた来年の大会が今から待ち遠しい。



県知事賞「ウィリアム・モリス」の巻
連衆の杉山豚望、久翠さんとは、ズームで指導をいただきましたながら巻きました。「連句の祭典」は初め

(杉山豚望)



の参加でしたが、講演会、実作会ともに楽しく過ごしました。いただいた賞状は美濃和紙でもとても貴重なものです。岐阜での思い出とともに大切にしたい
(小原千秋)

県連句協会会長賞「永平寺」の巻
連衆は、名本敦子さん、岡田伊勢子さん、杉山豚望さん。何十年も一緒に連句を巻いて気心も性格もその日の調子も機嫌も手に取るようにわかる程です。作品に対する意見も忌憚なく言い合います。笑いの絶えない連句会です。そんな連衆だからこそ頂けた賞であると思います。これからも、ますます元気で楽しみたいと思います。
(久翠)

愛媛県かるた会

小倉百人一首競技かるた全国大会

- 令和6年10月28日(土)・29日(日)
- 大垣市武道館(大垣市米野町)

各都道府県にゆかりのある選手が一堂に会して、かるた技を競い合う国民文化祭競技かるた部門。2024年大会は、岐阜県で開催された。愛媛県チームは、2019年度大会で初の決勝トーナメント進出を果たしており、「決勝トーナメント進出」と「決勝トーナメント初勝利」を目標に大会に臨んだ。

開会式
レポート

開会式は10月14日、岐阜メモリアルセンター「で

「清流の国ぎふ」文化祭2024は10月14日(月・祝)の開会式を皮切りに、11月24日(日)までの42日間で、300を超える多彩な文化プログラムが開催され、260万人の方々による文化の交流が繰り広げられました。



予選リーグは、栃木県、千葉県A、徳島県と対戦することになった。いずれのチームも強豪であり、全国レベルで活躍する選手ばかりの厳しいブロックとなった。

結果として、栃木戦が1-4、徳島戦が4-1、千葉A戦が0-5と今年も

予選3位となった。非常に悔しい思いだが、大舞台で勝つことはやはり難しい。

最後に、この文を書いているときに「2028年 国民文化祭 愛媛県が招致へ」というニュースを目にした。愛媛県で行われるかどうかはまだ定かではないが、おそらくそこが私の最後の大舞台になるのではないかと感じた。しんどいことも多いが、今後もかると向き合っていきたいと思う。

(愛媛県チーム 工藤壮樹)



交付書書交付式
令和7年1月20日

ヒメフェス2025」とも連携しながら、日常の中に文化芸術を浸透させることによって、地域伝統文化の次世代への継承や地域の活性化につなげます。
令和10年は、県文化協会が設立35周年、県民総合文化祭が40周年を迎えます。そんな節目の年に開催する国民文化祭、ぜひともご期待ください。

愛下ームにて開催され、総勢3000人以上が参加し、約3時間もの見ごたえあるプログラムが繰り広げられました。地域の伝統文化や、地元の素人役者が演じる全国でも珍しい「地歌舞伎」、太鼓演奏や鶴飼を表現した舞踊、関ヶ原の戦いをモチーフとした高校生によるマーチングバンド、岐阜県と友好交流の覚書を締結しているポーランド南部シロンスク県の民族舞踊、ユネスコ無形文化遺産に指定されている郡上踊り、出演者全員が登壇した大合唱など、伝統や歴史を感じさせる圧巻のステージでした。
また、応援大使には岐阜県出身の俳優である竹下景子氏、紺野美沙子氏、伊藤英明氏、義足のダンサーの大前光市氏が就任し、司会や朗読等、開会式を彩っていました。
岐阜県出身で岐阜県美術館長でもあるアーティストの日比野克彦氏が総合プロデューサーを務め、日比野氏が事業名、愛称を考案するなど積極的に関わった、それぞれの地域の「推し」を住民協働で見つけ出し、特産品の和紙によるオブジェとして制作した「ちーオシスタチュー」や、会場全体を川湊と見立て、山並みや長良川の水車など岐阜県らしさを表現していました。

令和10年度愛媛開催内定

愛媛県で令和10年度の国民文化祭を開催することが内定しました。県内での開催は、平成2年度の「第5回国民文化祭・愛媛90」以来、2回目となります。

平成2年10月19日から10日間にわたり県内各地で開催された前回大会では、67万人を超える参加者が愛媛に集い、開催初日のオープニングパレードでは、全国から集結した大型の山車・御神輿等が、スタート地点の千舟町通りから会場の県民文化会館まで約2.4kmに及ぶコースを練り歩き、その華やかさと勇壮さで観客を魅了するなど、中四国で初めての開催に相応しい文化の祭典となりました。また、この開催をきっかけとして、2年後の平成4年11月に県文化協会が発足しました。

前回大会から今年で35年が経過し、県内の文化芸術を取り巻く環境は大きく変化しました。担い手の確保や育成が深刻な課題となっている中で、3年後の国民文化祭開催に向けて、県と東京藝術大学が今年10月に開催する県民参加型のアートフェスティバル「アートベンチャーエ

伝統文化未来づくり事業

こども文化体験教室2024

本事業は、子どもたちに舞台発表や、鑑賞、ワークショップの体験を通じて伝統文化に触れることができる場を提供することで、伝統文化の担い手となる子どもたちを発掘し、次世代へ継承することを目的に、平成27年度から実施しているものです。

今年度も、8月24日(土)エミフルMASAKIでこども文化体験教室2024を開催し、多数の親子連れの皆様にご参加いただきました。

会場では、文化協会会員の講師による指導のもと、屋内のグリーンコートにおいて、いけばなワークショップ、箏の演奏や体験、吟詠剣詩舞、虎舞、日本舞踊の発表等を行いました。発表に参加した子どもたちは日頃の練習の成果を十分に発揮して、迫力のある演技・演奏を披露してくれました。また、初めて伝統文化を体験する子どもたちにも、興味をもって取り組んでもらうことができ、「たのしかった」「またやってみたい」といった声を多くいただきました。

文化協会会員の高齢化や後継者不足が進む中、このような事業を通して、子どもたちやその保護者が伝統文化に興味を持ち、新たな担い手の獲得につながることを期待しています。

なお、当事業は来年度も引き続き実施したいと考えています。



至善流大洲吟詠会



道後親子日舞教室



愛媛県三曲協会

愛媛県吟詠
剣詩舞道連盟



古三津子ども
虎舞教室



華道家元池坊松山中央支部



箏・絹の会「西予箏曲子ども教室」



愛媛県華道会

参加団体

- ・華道家元池坊松山中央支部
- ・愛媛県三曲協会
- ・至善流大洲吟詠会
- ・古三津子ども虎舞教室
- ・箏・絹の会「西予箏曲子ども教室」
- ・愛媛県華道会
- ・公益財団法人公認愛媛県吟詠剣詩舞道総連盟
- ・道後親子日舞教室

参加した子どもたちの感想

- ▶ いけばなをはじめてやっただけじゃようずにできなかったのしかったです。
- ▶ 箏のことがよくわかりました。
- ▶ それぞれのでんどうの文化をこれからもまもっていきたいと思います。

参加した保護者の感想

- ▶ とても貴重な機会だと思います。ありがとうございます。
- ▶ どうしたら上手にできるかアドバイスがもらえて、子どもが一人で楽しくできてよかったです。
- ▶ 1才の子どもが吟詠をまねてうたっていたので、伝統文化に年齢は関係ないと思った。

五・七・五のこころ
吟行ナゼ
えひめ



高浜虚子の句碑

あまりにも高名な高浜虚子の句碑である。今治市小浦町の糸山公園展望台登り口の駐車場に来島海峡大橋を見下ろすように建っている。句碑といえながら、虚子著「渡仏日記」(一九三六年発行)の一部で、昭和十一年二月十六日、パリ遊学中の次男を郵船箱根丸で訪ね、ドイツ・イギリスを廻って六月十五日に帰国した時の文章をそのまま、句も含めて転載した極めて珍しい形式の句碑である。碑文全文を次に記す。

昭和十一年六月十一日(木曜)
朝六時床を出て甲板に出てみると、丁度郷里の海岸を通つて居るらしい島山のた、ずまひであった。(中略)そこへ同郷の瀬川君も起きて来て、互に指し示しつ、語つた。かねて、私の郷里の山川に接したいと云つて居つた楠窓君も呼んで、共に見た。今更ながら、瀬戸内海の景色の和らぐ絵のやうなのに見入つた。
戻り来て、瀬戸の夏海 絵の如し
来島の瀬戸に来るまで甲板にたたずんで居て、少し朝飯が遅れた。

糸山公園には他に、野口雨情の詩碑や塩崎素月の句碑も見ることができる。

(愛媛県俳句協会 松本勇二)

松山市文化協会

会長 土居 英雄

松山市文化協会は、文化活動の振興及び新たな文化の創造を図り、市民生活の向上及び豊かな地域づくりに寄与することを目的に、平成6年3月22日に発足し、令和6年に30年の節目を迎えることができました。

平成17年には北条市・中島町との合併に伴い、松山市・北条市・中島町の3つの文化協会を一本化した新たな松山市文化協会が誕生しました。現在では松山市内で活動する180の文化団体の約1万5千人が加盟する大きな繋がりととなり、日々、活動を続けています。

【設立30周年記念事業】

設立30周年の節目として、令和6年12月22日に松山市総合コミュニティセンターカメラシアホールにて記念式典及び記念表彰を開催しました。まず、記念式典には、田淵雄一郎松山市副市長、佐藤陽三愛媛県



映画祭記念トークの様子

文化協会名誉会長、市村公子愛媛県文化協会会長にご来賓としてお越しいただきました。次に、記念表彰では、特別功労者表彰は過去20年にわたり当協会の役員、評議員を務められた方々を、功労表彰は設立以来30年にわたり在会された会員の皆さまを顕彰いたしました。当日は関係会員の方々が表彰受賞者のご家族など多くの方々が出席され、想い出話や近況などを語り合う良い機会となりました。また、記念映画祭として「Shall we dance?」「がんばっていきまっしょい」の2本を上映、併せて周防正行監督、原作者敷村良子氏の記念トークも開催し、多くの観覧者で賑わいました。

【松山市民文化祭】

当協会が発足する前から開催し、現在も継続している松山市民文化祭は本年度で第43回を数え、地元松山で活躍する団体個人の発表の場として定着している事業です。特に芸術祭は、当協会会員



芸術祭の様子

の自主的な企画運営のもと、松山市民会館大ホールを会場として様々な分野の団体が出演し続けられています。出演者の高齢化に伴い継続が困難な団体もありますが、愛媛CATVの協力を得て活動の様子を録画放映している効果もあり、新たな分野の団体が新規会員として入会され、出演されています。

【情報発信】

以前と比べて紙媒体での情報発信が低調になっているものの、依然としてその需要や要望はあり続けています。当協会では文化情報誌松山「きらめき」を年2回発行し、公共施設のほか各銀行の支店窓口などにフリーペーパーとして配布し、市民の皆さまの文化意識の高揚を図っています。令和5年春号で記念すべき100号を発行し、当協会会員による取材、寄稿など特色ある紙面づくりに努めています。

【他団体との連携】

ここ数年は松山市が策定している松山



機関誌「文化情報松山 きらめき」

市文化芸術振興計画に基づき、後継者づくりや文化活動の普及の一環として夏休み、冬休み期間に「こどもおけいこ教室(伝統文化こども伝承事業)」を松山市文化・スポーツ振興財団と連携実施、県内では馴染みの薄い人形劇公演を松山市文化創造支援協議会と共催実施するなど他団体との結びつきにも力を注ぎ、活動する幅を大きく広げています。

このような一つ一つの活動が10年後、20年後へ向かう当協会の道標になればと願っています。

【終わりに】

現実的な課題として日本各地の様々な文化団体が抱えている少子高齢化、後継者不足による会員数の減少、文化活動縮小への対応が喫緊の課題として松山市文化協会には課せられています。この課題に会員の皆さまと共に取り組み、今後、会員がより一層連携し、会員の自主的な取り組みによる効果的な事業の推進を図り、松山文化の牽引役として、真に心潤う生活の実現、活力ある地域づくりに努めてまいります。

東温市誕生20周年記念事業 東温市民ミュージカル 「人と川と祈りと」重信川伝説

東温市地域活力創出課 安井 龍也

◆東温市の取組

東温市を、全国から人材が集う「舞台芸術の聖地」に。

この実現のため、東温市では、平成28年度から令和7年度までの10年間で計画期間とする「アート・ヴィレッジとうおん構想」(以下「構想」という。)を策定しました。

これは、国が進める地方創生の流れを汲み、「東温市ならではのまちづくりを推進し、全国から舞台芸術関連人材に選んでいただけるまちを創生していくこと」で、市の文化芸術の推進と人口減少対策に資することを目的とした構想で、西日本唯一の常設ミュージカル劇場である「坊っちゃん劇場」が存する本市だからこそできる、官民協働の計画として取組を開始しました。

◆開催の経緯

この構想に基づく取組の契機として実施したのが、平成28年度に開催した東温市初の市民ミュージカル「城ノブ〜愛媛のマザー・テレサ〜」です。東温市民を中心として市外からも多



市民スタッフによるミーティング

くの方々にご協力いただき実現したこのミュージカルは、全3公演満席と、大変な好評を博して幕を閉じました。

終演後、出演者らに向けて実施したアンケートでは「舞台創りに携わることができ大変充実した時間だった」、「次も東温市民ミュージカルに参加したい」との意見が多数寄せられました。また観劇者向けのアンケートにおいても「大変満足できる舞台であった」、「次回も観劇したい」などの好意的な意見が大半を占め、演者・スタッフ・観客、全員の想いが一致した、素晴らしい舞台を創ることができました。

それから8年後、令和6年度に誕生20周年を迎えた本市にとって、さらに30周年、50周年を目指すために実施する記念事業の検討に当たり、市民ニーズが高く、新たなまちづくりを進めるに当たってふさわしい取組であるとして、全世代参加型としては2回目となる市民ミュージカルの開催を決定しました。

この市民ミュージカル制作に当たっては、単なる舞台制作・上演に留まることなく、「舞台芸術の聖地の基盤となる環境づくり」を最も大きなテーマとして取り組みました。特に、平成28年度に開催した市民ミュージカルの出演者らが、今回は市民スタッフとして運営の中心を担うなどの成長が見られたことが、構想に基づく取組の最も大きな成果であったと言えます。

◆開催の成果



公演の様子

この市民ミュージカル制作により参加していたいただいた出演者の方々に加え、坊っちゃん劇場スタッフの方々、本市へ活躍の場を移して来られた地域おこし協力隊など、構想推進の中で培って来た人材が一体となり総力を挙げて創り上げた舞台は、全4公演満席、1629人を動員し、

大好評の中で終演を迎えることができました。

◆今後に向けて

終演後に行った解散式では、複数の子どもたちから「市民ミュージカルに参加して将来の夢が決まった」、「舞台俳優として活躍したい」との声が上げられました。また、他の参加者からも「次はいつ実施するのか」、「また参加したい」との意見が多数寄せられたほか、本事業を通じて坊っちゃん劇場作品への出演に繋がった出演者もいるなど、多くの方に夢と希望を与えることができ、舞台芸術の推進に資することができたものと考えます。

まちづくりの方向性・選択肢は多方面に及びますが、今後も引き続き、市民の方やこのまち

に関わる全ての皆様にとって、住み続けたい、挑戦してみたいと思える、活力のあるまちとして発展していけるよう、地方公共団体としての在り方を皆様と共に考え続けたいと思います。



解散式の様子



近代日本画と 俳文学との関わり

愛媛県美術館学芸員 岩本 成美

愛媛県美術館の所蔵する近代日本画のなかには、俳文学と関わりのある作品が含まれます。例えば、松尾芭蕉の句に詠まれた光景を題材に描かれた、川端龍子による『荒海』（昭和28年（1953））や、池田遙邨が種田山頭火の句から広がるイメージを元に制作した連作『山頭火シリーズ』の『蚊帳の中までまん丸い月昇る山頭火』（昭和63年（1988））の二点などが挙げられます。これらが特定の句を題材にしている一方、秋田県出身の日本画家、平福百穂（1877-1933）による双幅作品『露の臺・かけ稲』（大正13年（1924））は、具体的な句は伴わないものの、俳句的な趣を有する作品といえることができます。本稿ではこの作品における俳句との関連について考えてみたいと思います。

最初に、本作を概観してみます。双幅のうち、一点には雪解けの地面から生え始めた露の臺を、もう一点には、天日干しされる稲が描かれており、春と秋が対比されています。雪解けの地面の上に、緊張感をもって配置された露の臺には、大正3

年（1914）ごろから百穂の作品に多くみられるようになる、たらし込みの技法が使われ、複雑な色合いを見せます。他方で掛け稲は、束にまとめられた稲穂の質感を軽やかな筆致で捉えています。

本作の俳句らしい表現に注目したとき、まず挙げられるのは季節の表し方です。本作に描かれる事物は、各幅で一つのも

のに絞られています。地面から顔を出す露の臺、刈り取られ干される稲といった一つの事物を通して季節を感じさせることができます。本作の俳句らしい発想を読み取る各幅に描かれた事物を通して、それぞれの季節の様相を思い起こすのではないのでしょうか。

歌人としてもその名が知られるように、百穂の経歴には俳句および短歌が深く関わっています。明治35年（1902）、歌人の伊藤左千夫と知り合ったことに始まり、斎藤茂吉、島木赤彦、長塚節ら歌人たちと広く交流を築いていくなか、明治39年（1906）に富士山にて詠んだ短歌をきっかけに、左千夫をはじめとする歌人たちに歌の指導を受けながら、歌



平福百穂『露の臺・かけ稲』
（絹本着色/（軸）双幅、大正13年（1924）、愛媛県美術館蔵）

作に励みます。また他方で百穂は、明治34年（1901）以降、新聞や雑誌の挿絵画家として活躍をみせますが、明治40年（1907）に入社した国民新聞には、芸部に高浜虚子が在籍していました。明治41年（1908）より、文芸誌『ホトトギス』の表紙および挿絵を手がけるようになり、その後『ホトトギス』の同人たちと写生をめぐり議論を交わすようになります。

百穂の作品からは、対象を観察することによってその実相を捉えようとする、子規の「写生」説の影響が窺えます。対象の姿を的確に描写している点のみならず、各幅の構図が、春の幅では地面の露の臺を小さめに点々と置き、一方で秋の幅では画面からはみ出るほどに稲束を大きく配置したものである点も注目されます。

両幅を構図の上でも対比させることがそのねらいとして考えられますが、それだけではなく、この構図は、対象を見つめる画家の視線に限りなく重ねられたものなのではないでしょうか。雪の間から徐々に顔を出し始めた露の臺たちをやや遠くから眺める視線、束ねられた稲穂をよく見ると、そこにコロギがとまっていたことを発見する視線と、本作では対象を観察するまなざしそれ自体までも、絵画のなかに表されているようです。

子規の「写生」に対する考え方は、西洋絵画からの影響を受けて構築されたものですが、百穂の作品からは、子規門下の歌人たちの交流により、子規の理論が反対に絵画へともたらした影響を示しています。

文化イベント情報

箏曲

第9回西予市青少年育成文化事業 箏・絹の会コンサート

日時 令和7年4月27日(日) 13:00開演
会場 宇和文化会館
内容 箏・絹の会会員・西予箏曲こども教室・野村中学校箏曲部・野村高等学校箏曲部による箏コンサート(青少年育成文化事業)
入場料 無料
主催 箏・絹の会
お問合せ 箏・絹の会 代表 亀崎としみ
TEL 0894-72-2168
TEL 090-4971-3755

美術

第73回春季県展

日時 令和7年5月20日(火)～28日(水)
9:40～18:00(最終日は15:00まで)
会場 愛媛県美術館
本館特別展示室1、2、3 /
日本画・版画・写真・デザイン
南館1～12 / 洋画・彫刻・工芸・書道
内容 春季県展はアンデパンタン方式の平等な立場で自由に真剣に制作した作品の展覧会です。出品作品はすべて展示します。中学生以上、本県在住または出身の方、出品してみませんか! 出品料一般5,000円、中・高校生3,000円
入場料 当日一般600円、65歳以上・高大生400円、小中生、身障者(手帳持参)無料
主催 愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県美術会・愛媛新聞社
お問合せ 愛媛県美術会 TEL 089-993-7224

第48回愛媛女流書家連盟展

日時 令和7年7月16日(水)～20日(日)
9:40～18:00(最終日は16:00まで)
会場 愛媛県美術館南館ギャラリー1・2・3・7
内容 会員127名が、漢字・かな・大字書・近代詩文・前衛書等を出品。テーマは「いのち輝く未来」-2025年大阪・関西万博によせて-
入場料 無料
主催 愛媛女流書家連盟・愛媛新聞社
お問合せ 愛媛女流書家連盟 会長 藤岡抱玉
TEL 089-984-1624



浪曲

第12回 虎造節全国大会

日時 令和7年5月24日(土)
13:00開演(12:30開場)
会場 松山市民会館 小ホール
内容 二代目廣澤虎造は、没後60年を過ぎた今もなお浪曲ファンを魅了し続けています。虎造節を唸る「声自慢、節自慢」が全国から愛媛に集まり虎造節日本一を競います。愛媛での全国大会は二回目となります。これまでの大会で日本一になった広沢虎仁、広沢虎松の口演もお楽しみいただきます。(審査員: 八木健、広沢虎丸、広沢虎光、米田順也、伊丹明 他)
参加料 大会出場費: 20,000円
観覧料: 事前予約1,000円
当日1,500円
主催 虎造節保存会
お問合せ 虎造節保存会事務局
TEL 090-8287-1390



バレエ

第54回えひめバレエ祭

日時 令和7年3月9日(日) 13:30開演
会場 愛媛県県民文化会館メインホール
内容 愛媛バレエ協会に所属する13団体によるクラシックバレエ公演。各団体がそれぞれの個性豊かな作品を発表します。
入場料 無料
主催 愛媛バレエ協会
お問合せ 愛媛バレエ協会 会長 内田久美子
TEL 0895-24-5103



連句

第29回えひめ俵口全国連句大会

日時 令和7年4月29日(火・祝)
10:00～16:00
会場 松山市 コムズ
内容 全国の連句愛好家が松山に参集しての連句大会です。午前: 表彰と講演 午後: 実作と披講 講演は日本連句協会理事 村松定史氏 聴講希望の方は事務局へご連絡ください。28日は前夜祭を行います。
入場料 3,000円(当日見学・聴講の方は無料)
主催 えひめ俵口全国連句大会実行委員会・愛媛県連句連盟
お問合せ えひめ俵口全国連句大会実行委員会事務局 中田くにと子
TEL 089-904-1307



新緑連句大会

日時 令和7年5月10日(土) 13:00～16:30
会場 松山市 コムズ
内容 新会員の紹介を兼ねた連句大会です。連句は長句と短句を交互に付け込んでゆきます。1巻に月・花・恋を詠み込み時局の句も欠かせません。想像力を掻き立てるのが連句です。また、「楽しくなければ連句じゃない」とも言われています。気軽にご参加ください。
入場料 無料
主催 愛媛県連句連盟
お問合せ 愛媛県連句連盟事務局
TEL 089-923-9663



実作会の辞書・用紙・短冊



愛媛県
イメージアップキャラクター
みぎやん

第32回二之丸薪能



日時 令和7年5月7日(水)
18:00～20:30(予定)
会場 松山城二之丸史跡庭園内特設能舞台
内容 旧幕藩時代から城下の人々に親しまれてきた伝統ある能楽を、ゆかりある松山城二之丸史跡庭園において開催します。
入場料 一般1,400円、協会会員1,000円、高校生以下700円
主催 松山市文化協会
お問合せ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008

二之丸大茶会

日時 令和7年5月10日(土)～11日(日)
10:00～15:00(予定)
会場 松山城二之丸史跡庭園
内容 風薫る時節に市内各流派が二日間にわたり、抹茶や煎茶によるお点前を披露いたします。
入場料 500円(別途入園料が必要)
主催 松山市文化協会
お問合せ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008



第58回にはま春の市民文化祭 芸能の部

日時 令和7年4月6日(日)・12日(土)・
13日(日)・20日(日)
13:00～16:00
会場 新居浜市市民文化センター大ホール
内容 芸能発表会・市民吹奏楽
入場料 無料
主催 新居浜市
お問合せ 新居浜市文化振興課
TEL 0897-65-1554
新居浜文化協会
TEL 0897-36-0874



春季生活文化部展示会



日時 令和7年4月19日(土)～20日(日)
10:00～16:00(予定)
会場 松山市総合コミュニティセンター
展示室1
内容 生活文化分野の会員「愛媛洋蘭会」と「公益社団法人全日本きものコンサルタント協会愛媛県」が、多種多様な洋蘭と季節の着物の帯結びを展示します。
入場料 無料
主催 松山市文化協会
お問合せ 松山市文化協会
TEL 089-909-8008

三曲

第62回愛媛県三曲協会定期演奏会



日時 令和7年4月20日(日)
12:00開演(予定)
会場 松山市民会館 大ホール
内容 愛媛県三曲協会会員による箏・三絃・尺八の演奏会。東・中・南予県下全域より参加。古曲・現代曲等様々な曲を演奏。
入場料 無料
主催 愛媛県三曲協会
お問合せ 愛媛県三曲協会 会長 今井藤凡
TEL 090-7145-7024

古曲を楽しむ会

日時 令和7年6月15日(日)
13:00開演(予定)
会場 松山市民会館 小ホール
内容 愛媛県三曲協会会員による箏・三絃・尺八の演奏会。東・中・南予県下全域より参加。出演の各社中が古曲を各1曲全部通して(演奏時間の長いものも)演奏。
入場料 無料
主催 愛媛県三曲協会
お問合せ 愛媛県三曲協会 会長 今井藤凡
TEL 090-7145-7024

総合

第58回にはま春の市民文化祭 美術の部



日時 令和7年4月6日(日)～13日(日)
9:30～17:00 休館日なし
会場 あかがねミュージアム
内容 書道・日本画・洋画・工芸・写真・デザイン・版画・絵手紙・文芸・華道の展示
4月6日(日): お茶会
4月6日(日)、12日(土)、13日(日):
ワークショップ「缶バッチづくり」
入場料 無料
主催 新居浜市
お問合せ 新居浜市文化振興課
TEL 0897-65-1554
新居浜文化協会
TEL 0897-36-0874

箏のつまみ

(題字 藤岡抱玉)

ひめラーの一年をふりかえって

アートコミュニケーション「ひめラー」一期生 中島 佐知子

東京から西条市丹原町に移住して4年、今も変わらずこの地域の自然の営みに感動している自分があります。「何か私らしいやり方で、地域や人に深く関わっていききたい」そんな風に考えていたところ「ひめラー」の募集を知り、参加しました。

「ひめラー」とは愛媛県内で活動するアートコミュニケーションの名称です。2024年度からスタートした愛媛県と東京藝術大学の連携事業「Art with ehime(アートベンチャーエヒメ)」は、アート(文化芸術)を介して人と人、人と地域をつなぎ、そこから生まれる新たな価値や関係を社会に広げていくことを目指すプロジェクトで、その橋渡し役を担うのが私たち「ひめラー」です。



この一年間は、「対話型鑑賞」や「きく力」「ファシリテーション」など、アートコミュニケーションとして求められる力を学んできました。それは、役割や肩書きを脱ぎ捨て、ただの「私」として自分と向き合い、学び、成長を感じられた時間でした。凝り固まった正解思考(正解が一つだけある)というやっかいなものが私の中にあるはず。自由に発言して良い場面でも「先生が求める回答」や「優秀な回答」を無意識で求めてしまいがちです。けれど、ひめラーの活動を通じて私は、定められた「正解」ではなく居合わせた人たちが出す「納得解」の面白さを学びました。すると、「この人はどんな感じで話しているのだろうか?」と、目の前の人に心から興味を持って話を聞くようになるようになりました。私にとって大きな変化でした。

いよいよ今後は地域に出て活動していきます。地元出身の人、都会から来た人、大人、子供など立場の違いや視点の交差するような場づくりができたらいかなとおぼろげながら考えています。そこに住む人が主体となり、誰もが納得感を持ち「ここが大好き!」と思える地域が増えるのが願いです。そのためにひめラーとして何ができるか、仲間とともに模索しながら進んでいきたいです。

このコーナーでは読者の皆様からいただいた投稿を随時掲載して参ります。原稿は、400〜600文字で作成いただき住所、氏名、所属団体名、電話番号、ペンネーム(ペンネームで投稿する場合は、明記のうえ、本ページ下に掲載しております)県文化協会事務局まで郵送してください。皆様の声をお待ちしております。

受賞のご紹介

坂本淳子氏(松山市)が令和6年度「愛媛県教育文化賞」を受賞されました。

坂本淳子氏は、昭和39年に設立された愛媛県三曲協会の役員として長きにわたり本県の三曲の普及・発展に尽力されました。平成10年に副会長、平成30年からは会長、現在は相談役に就任されるなど、協会の発展や後進の育成に寄与されています。

また、団体としては、箏曲宮城会「潮の会」を主宰され、次代を担う子供たちによる発表を組み込んだ演奏会や、県民総合文化祭では他の伝統芸能団体と連携した「邦楽・邦舞公演」の開催など、演奏技術向上や発表機会の提供などを通して、三曲文化の継承に貢献されています。

今井藤凡氏(松山市)が令和6年度「地域文化功労者 文部科学大臣表彰」を受賞されました。

今井藤凡氏は、愛媛県三曲協会 庶務、庶務部長、副会長を歴任し、令和2年から現在まで同協会の会長として、長年にわたり組織の運営にあたり、講師として学校や地域で箏の指導を行うなど、本県における箏の普及に尽

力されています。

また、芸容会家元として会員への指導を行い、定期演奏会や講習会を通して演奏技術の向上を図っているほか、小中学校に出向いて箏の魅力を伝えたり、愛媛県県民総合文化祭では、他の分野の団体と連携した「邦楽・邦舞公演」を開催したりするなど、幅広い年齢層の県民が邦楽を鑑賞する機会を提供し、本県の芸術文化の振興に貢献されています。

賛助会員の募集

愛媛県文化協会では、愛媛の文化活動並びに当協会を側面から支援してくださる企業・個人の賛助会員(一口1万円)を募集しています。愛媛文化の将来を担う人づくりと、文化を生かした地域活性化のため、1人でも多くの方々に応援いただけるように、積極的な呼びかけを行っております。会員の皆様も、お住まいの地域で応援いただける方への呼びかけ等にご協力ください。

●特典

- 1 機関紙「文化協会えひめ」の送付(年2回発行)
- 2 機関紙への賛助会員名簿の掲載(年1回)
- 3 県民総合文化祭事業への招待
- 4 その他愛媛県文化協会主催行事
ほか関係情報の提供

今号では、10~12月にかけて開催された県民総合文化祭を中心に編集いたしました。県民総合文化祭では、今年も子どもから大人まで様々な世代に参加いただいただけでなく、中には外国からの参加者もいらっしゃるなど、文化を通して世代・世界がつながる、今年のテーマを体現するような県民祭になりました。本誌でも取り上げたように、本県での令和10年度国民文化祭開催が内定しましたので、今後ますます愛媛の文化芸術が盛り上がっていくことを願っております。

最後になりましたが、本誌の発行に際しご寄稿いただいた皆様に謝辞を述べさせていただきます。ありがとうございました。(乙)

編集委員

委員長 森原直子(松山市文化協会)
副委員長 藤岡抱玉(愛媛女流書家連盟)
森本敦子(愛媛県連向連盟)
名川啓子(四国中央市文化協会)
末光勝幸(伊方町文化協会)

編集後記

お問い合わせ

〒790-8570
愛媛県観光スポーツ文化部文化局
文化振興課内 愛媛県文化協会事務局
TEL 089-947-5480
FAX 089-913-2617
E-mail bunkashinko@pref.ehime.lg.jp



▲機関紙電子版